

教科書三十二ページ「枕草子 清少納言」

❖ 単元名「自分流『枕草子』を書こう」



「枕草子」って聞いたことがあるよ。たしか、小学校で「春はあけぼの。ようよう白くなりゆく山ぎわ、少し明かりて紫立ちたる雲の白くたなびきたる」というところを読んだんだ。



うんうん、あんまり意味は分からなかったけれど、音読したよね。今回、勉強することになって、「枕草子」ってどんな作品なのかを教科書で確認しよう。

課題①「枕草子」について、確認・チェックしよう。

宮仕え：宮中(宮殿の中)にお仕えすること。

「枕草子」は 平安時代に 清少納言 によって書かれた作品である。

作者が宮仕えをしていたときに見聞きしたことや季節の感想、人生観などを折に触れて書き記したもので、作品の種類は **随筆** と呼ばれる。教科書に掲載しているのはこの作品の第一段。

つまり、最初の段である。第一段は作者の **四季** に対するものの見方や考え方が書かれており、鋭い才気がうかがえる名文と言われている。

清少納言という人の、本名は分かっていない。 平安時代中期の歌人 **清原元輔** の子であり、時の一条天皇の

**中宮定子** に仕えた。



この単元名に迫るためには、どうやって学習していったらいいかな。



「自分流 枕草子第一段を作る」ということだね。第二段は、「四季」に対するものの見方や考え方が書かれているんだから、まずは、僕たち自身が考えるそれぞれ季節のイメージをあげてみようか。



そうね。わたしだったら、春といえば「たんぽぽ」夏は「ひまわり」秋は「コスモス」冬は「シクラメン」って感じがな。私は家で植物を育てているので、四季それぞれに咲く花がばつと思いつくわ。

課題②あなたの思う四季のイメージを挙げておこう。

春は・・・「

」

夏は・・・「

」

秋は・・・「

」

冬は・・・「

」



まずは自分の見方や感じ方を確かめたんだけど、続いてどうやって学習していったらいいかな。



やっぱり清少納言がどんな見方・考え方をしていたのか、枕草子の第一段はどんなことが書かれていたのかを

読み取ることが大事だよ。



では、どんな風に読んでいったらいいかな。一年のときの「竹取物語」の学習を参考にしてみると・・・



あのととき学習したのは

❖ 仮名遣いに注意しながらすらすら読めるようにすること。

📌 課題③④

❖ 言葉の意味（現代語訳）が分かり、さらに、作者がいたいことは何かが分かること。

📌 課題⑤⑥

❖ 文章にどんな特徴があるかが分かること。



そうだ、仮名遣いが現代とは異なるところがあったり、今は使わない言葉があったりして読みにくかったよ。

すらすら読むには、声に出して練習が必要かも。

現代語訳が書いてあるけれど、「それってどういうこと？」って何がいたいのかわからないところもあったし。

三つめの、❖「文章にどんな特徴があるか」ってどんなことだったわけ？



「竹取物語でいうと「けり」「ける」「たり」「つて」言葉が多かったわ。

他に、省略も多かったな。例えば、「今は昔、竹取の翁といふものありけり。」みたいに。

一文が長すぎるなあ、と感じるものがあったよ。

が

「枕草子」も「竹取物語」と同じ時代に書かれているんだから、似たような傾向があるのかしら。

ほかにも、作者が

❖ 「どんな言葉を使っているのか。」

❖ 「どんな情報をどのように書いているか。」

といったことに着目して読んでいきたいな。

課題③ 次の言葉を現代仮名遣いに直し、全て平仮名で書こう。

( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( )

① やうやう ② 山ぎは ③ 聞もなほ ④ 飛びちがひたる ⑤ をかし

( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( )

⑥ いと近う

ちか

⑦ 飛びいそぐさへ

⑧ あはれなり

⑨ 言ふべきにあらず

⑩ 火桶

ひをけ

課題④仮名遣いに注意しながらすらすら本文を音読しよう。

課題⑤次の語句の意味を、現代語訳を参考にしたり辞書を使ったりして確かめよう。

語句	意味
① あけぼの	
② やうやう	
③ あかりて	
④ たなびきたる	
⑤ さらなり	
⑥ なほ	
⑦ 飛びちがひたる	
⑧ をかし	
⑨ いと	
⑩ あはれ	
⑪ まいて	
⑫ つらねたる	
⑬ 言ふべきにあらず	
⑭ つとめて	
⑮ さぶづも	
⑯ つきづきし	
⑰ ぬるくゆるびもていけ	
⑱ わろし	

課題⑥現代語訳を参考にして、次の「」に補うことのできる一字の平仮名を書こう。

- ① 山ぎは「」すしあかりて

② 雨なぐ「」降るもをかし
- ③ 山の端「」いと近うちか

④ 日「」入り果てて
- ⑤ 火など「」いそぎおして

⑥ 炭「」もて渡るも





自己評価をしましょう

この自己評価は皆さん自身が自分の学びを振り返るためのもの・皆さんの理解度や疑問を知るためのもので、先生の評価とは関係ありません。

課題①「枕草子」の作者などの基礎知識について、確認することができたか。

十分に	まずまず	自信がないが	できなかった。
できた。満足。	できた。	なんとかできた。	

課題③④現代仮名遣いに直し、全て平仮名で書き、また、本文を声に出してすらすらと読むことができたか。

十分に	まずまず	自信がないが	できなかった。
できた。満足。	できた。	なんとかできた。	

課題⑤次の語句の意味を、現代語訳を参考にしたり辞書を使ったりして理解したか。

十分に	まずまず	自信がないが	できなかった。
できた。満足。	できた。	なんとかできた。	

課題⑥現代語訳を参考にして、[ ]に補うことのできる一字の平仮名を書けたか。

十分に	まずまず	自信がないが	できなかった。
できた。満足。	できた。	なんとかできた。	

学習を終えて、分からないこと、疑問に思うことがあれば書き出しておきましょう。